

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) Y. A
所属 (School) 工学域物質化学系学類
学年 (Grade) 1年

留学先 (Name of overseas institution)
フランス、トゥール
留学期間 (study abroad period)
3週間

記入日 (Date) 10月8日

留学レポート Study Abroad Report

私は大学生になって初めての夏休みの間にフランスのトゥールへと留学しました。

私はもともとお菓子作りなどに興味があり、そこからフランス語にも興味をもつようになり留学制度もあるということでフランス語を学び始めました。しかし、私がフランス語の学習を始めたのは今年の4月からです。留学をするには少し早すぎるのではないかとも思いましたが、学び始めてすぐだからこそ正しい発音への修正もしやすいだろうと考え、留学を決意しました。

留学した町であるトゥールは、パリから近いが治安は大変良く、あまり海外に行ったことのない私でも安心して過ごせました。私はそこでホームステイをしながらトゥーレーヌ語学学院というフランス語の語学学校に通いました。トゥーレーヌ語学学院にはフランス語を学ぶいろいろな国籍の人たちがあつまっており、フランスに関することはもちろんですが、学院に通う人たちの母国についてもコミュニケーションをとる中で新しく知ることが多く、とても新鮮な留学期間を過ごせました。

ホームステイ先は、ホストマザーが一人暮らしをしている家庭にお世話になりました。夕食のときにその日の出来事などを話すのがフランスでの習慣だそうで、はじめはどう話せばいいかわからず相づちばかり打っていましたが、次第に辞書などで話したいことを調べたりしてから夕食に向かうようになり、ホストマザーとのコミュニケーションがとれるようになったと同時にフランス語の学習にもつながりました。ほかに2人で折り紙をしたりクレープを焼いたり楽しく過ごせました。

トゥーレーヌ語学学院の授業では話すことがメインで、当然ですが授業中使われる言葉はフランス語です。最初は全然聞き取れませんでした。徐々に断片的に聞き取って理解できるようになっていきました。また、発音の仕方についても、時には1対1で丁寧に教えてもらえるので、フランス語の発音の仕方にも慣れていきます。

また、トゥールの周辺にあるロワール川沿いにはルネサンス期に建てられた古城が多くあり、トゥール滞在中の週末にはその中のアンボワーズ城やクロ・リュセ城、シュノンソー城に訪れました。どの城も広大な庭や当時を彷彿させる多くの展示物があり、非常に興味深かったです。また、その周辺のレストランやカフェにも行き、そこで注文するのもなかなか苦戦しました。

フランス滞在の最後の週末はパリに行きました。パリに着いた日の夜には、パリの大学で日本語を専攻している学生との交流会の場が設けられ、フランス語と日本語を交えながら会話を楽しみました。つたなくはありますが、ホストマザーとの会話やトゥーレーヌ語学学院で学んだ表現や単語も使って彼らと会話ができだったので、自分のフランス語能力が向上したことが実感できました。そこでも友達ができたので、もっとさまざまなことを伝えられるようになりたいとこれからフランス語を学ぶモチベーションも向上しました。その次の日にはパリの観光をしました。オペラ・ガルニエやルーブル美術館、ノートルダム大聖堂、凱旋門など、パリの有名な観光スポットを巡りました。また、セーヌ川のクルーズにも参加しました。建造物や歴史背景の解説はフランス語と英語でされていますが、やはりフランス語は聞き取ることができませんでした。次またフランスに来る機会があれば少しでも聞き取れるようになりたいと感じました。

今回のフランス語留学は、私がまだフランス語を学び始めてから数か月ということもあり、はじめ

はフランスに来てしまったが本当に大丈夫だろうかと不安が大きかったですが、過ごしてみるといろいろな国の人とコミュニケーションがとれたり、丁寧に発音などを教えてもらえる授業だったりとても有意義な留学となりました。また、ホストマザーやフランス人の友人との会話によりこれからのフランス語の学習の意欲がわきました。留学の事前授業の時にも言われたことですが、留学においては自分から話しかけていく積極性が必要だということを実感しました。今回の留学の経験をもとに、これからのフランス語の学習をより発展させていきたいです。



シュノンソー城



凱旋門